

医院だより

令和 8 年 2 月 (271)

秋 山 医 院

藤岡市小林748-8

☎0274-22-8315

如月 (ききうぎ) 別名 きぬさらぎ、梅見月、

小草生 (おい) 月、初花月、梅つき月、雪消 (げ) 月、

陰暦 (旧暦) 二月の異称。用例は早く、「日本書紀」や「祝詞」の古訓に見え、語源については、寒さのためにさらに衣を重ね着るところから衣更着の義、陽気が発達する時節であるところから気更来もしくは息更来の義、草木の芽が張り出す月であるところから草木張月の義、この月に田を鋤 (す) き畑を打つところから鋤凌 (すきさらぎ) の義、など諸説がある。

如月の

日向をありく教師かな 前田普羅

(講談社「カラー図説日本大歳時記」)

アイスバブル (赤城大沼) (1)



目次 (頁)

- 1 二月の異称、二月の花、二月の言葉
- 2 二月の暦、お知らせ、診療案内、健康
テレフォン、大岡 信選集
- 3 けんこう (百九十三)
群馬県感染症発生動向調査より
- 4 院長のひとりごと (239)
108年目の邂逅 (かいこう)
- 5 (催し物のご案内)

『二月の花』

梅、椿、侘助、おおいぬのふぐり、節分草、マーガレット、金魚草、金盞花

『二月の言葉』

一日は、私どもにとりては短き一生涯であります。朝生まれ、昼働き、夜は復活の希望をいだいて眠りの床につきます。かくて私どもには一年に三百六十五回の生涯があります。なんと楽しいことではありませんか。

神の命さえ守ればよろしいのであります。世がいかになり行こうが、人が私どもについて何と思おうがこれ私どものいかんともすることのできないことであります。私どもは正義ありのままを実行して、他はこれをごとく神に任すまでであります。幸福なる生涯の秘訣は、単にこの一事にあると思います。(内村鑑三「一日一生」巻頭言)

「2月の暦」

一日 初午
三日 節分、奈良春日大社万灯籠
四日 立春
七日 北方領土の日
八日 こと始め、針供養
十一日 建国記念の日
十四日 聖バレンタインデー
十六日 日蓮上人誕生会
十九日 雨水
二十三日 天皇誕生日
二十五日 京都北野天満宮梅花祭

お知らせ

一、マイナンバーカード、資格証明書で受付を行っています。

カードは保険証の代わりになります。

二、診療案内

木曜日は休診です。

『午後診療』では予約診療もこなっています。

予約は電話でも受付できますのでご利用ください。

○当番医 五月五日(水)

○臨時休日 三月二十一日(土)はお休みです。

三月十九日から二十二日まで休診となります。

お間違えのないようお願いいたします。

『診療内容』

○一般外来診療

○往診・在宅医療(ご相談ください)

○骨粗鬆症の診療 ○ペロリ菌の診断・除菌

○CT、MRI、PETの予約

○胃・大腸内視鏡

○インフルエンザ・新型コロナ・肺炎球菌・带状疱疹ワクチンなど

三、群馬県保険医協会二十四時間健康テレホン

<http://www.rajin.com/kenko/>

電話〇二七―三三四―四九七〇

月	腎盂腎炎
火	保険でできる歯周病の治療
水	かかりつけ医いますか？
木	歯茎が腫れたとき
金	子宮外妊娠
土日	親知らずはなんで抜歯が必要なの？

大岡 信著『折々のうた』(春のうたから)

石(いわ)ばしる

垂水(たるみ)の上の早蕨の

萌え出づる春になりにけるかも

志貴皇子

『万葉集』巻八の巻頭を飾る。春の名歌として愛されてきた。「石ばしる」は石の上を激しく流れるさまをいう。「垂水」は滝。石の上をはげしく流れる滝のほとりに、早蕨も芽を出す季節になったのだ。冬は去った。さあ、野に出よう。

志貴皇子は天智天皇の皇子。万葉には六首残すだけだが、おおらかな調べは天性の歌人たることを示している。右の歌は『新古今集』にも若干歌詞を変えて採られている。

あはれなりわが身のはてやあき緑

つひには野辺の霞と思へば

小野小町

『新古今集』巻八哀傷歌。大伴坂上郎女の歌、(酒坏(さかづき)に梅の花浮け思ふどち 飲みての後 は散りぬともよし)にも花の命に託した生への愛惜があつたが、歌は晴れやかだった。平安初期の小野小町の歌になると、生の無常へそぐまなざしに憂鬱の色が深まる。野べの霞というのは、死んで火葬されるとき、その煙がたなびくさまこの歌の生み出す広がりを持った映像と、それが与える感銘は、そんな解釈に限定されないところがある。春愁と、生の無常迅速と。

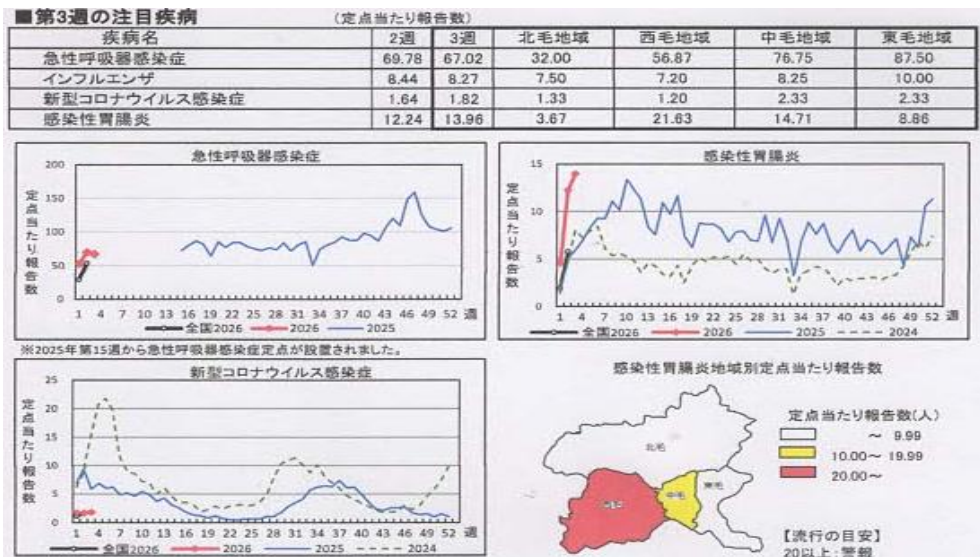
令和8年1月20日

★県内のインフルエンザ警報は解除されましたが、まだ報告が続いています。

引き続き、周りに感染を広げないよう、咳やくしゃみが出るときは、「マスクを着用する」「鼻や口をティッシュで覆う」「袖や上着の内側で口や鼻を覆う」などの咳エチケットを心がけましょう。もし手で覆って咳やくしゃみをした場合は手を洗いましょう。

★感染性胃腸炎の報告が増加しています。特に、西毛地域では警報値の目安(定点当たり20人以上)を超える報告がありました。

感染性胃腸炎は、食品や手に付いたウイルスや細菌が口から入ることで感染します。トイレの後やおむつ交換の後には石けんで丁寧に手を洗いましょう。また、嘔吐物や糞便で汚染されたものの消毒には次亜塩素酸ナトリウム(塩素系漂白剤)が有効です。



院長のひとりごと(2309)

108年目の邂逅(かいこう)

◇祖父と長姉の接触がもう少し少なかったら、私の今の悩みは、恐らくなかったに違いない。

姉は昭和7年生まれで、祖父は昭和13年に波乱の一生を終えているからである。二人の接触は6年間であった。

◆祖父の母は一人の男子を生んで、亡くなっている。その男子が私の祖父である。継母が来て数人の弟妹ができた。新しい母から生まれた異母弟を祖父は可愛がり、勉学にも向上心があることを喜んで便宜を図って上げたが、その弟は肺結核にかかり、十九歳で亡くなってしまったという。

◇異母弟の死を悲しんだ祖父は遺品を集めてどこかにとっておいたと、私の姉に話したことがあったという。大きな農家であったが、いつまでも遺品を残しておくわけにはいかなかったから、特別のことだったかもしれない。

とはいえ、この話を孫娘の姉に聞かす前に、祖父は、それにも負けぬほど大きな苦難を経験していた。まずは実の母親を幼くしてなくしていたこと、そしてさらに辛いこととして、長男を日露戦争で亡い(二十三歳)、二人目の娘は自ら命を縮めてしまふという不幸が襲ったのです。徳川政権から明

4
治政府になり、村も大混乱の中、臨時に村

の首長を預けられ、山の入会地の払い下げの交渉に東京まで出かけて行った。上越線が開通する前だったので長岡迄下り、信越線で上京したという。ちなみに清水トンネルの開通までは九年の工期を経て、1931年(昭和6年)までのまだ50年もまえのころのことであった。

祖父にとつては戦死した長男の次の男子には、子供ができなかつたので、次男の後に家を継ぐことになる三男だった父の娘によくよく聞かしておきたい、伝えていってもらいたいことがいっぱいあったのだと思う。姉に話を託せる喜びを感じていたに違いないと想像できます。

◆太平洋戦争、終戦後、農地改革で村が沸き立っていたころに、高校を卒業した姉は、学業を望みながらも、家に残り、農作業はもちろん、夏は山での薪づくり、柴山刈りで一年中の燃料確保に父と働き、上の学校に進めない悔しさを、怠惰な私の中学生時代を親に代わって叱咤激励してくれることになった。だから、生意気に「勉強が嫌だ」とか言うおうものなら大目玉を食らうこと必至であった。

◇そんな折にも、大叔父(父の叔父)が「学問をしたい」と望みながらも結核で夭折して

しまった話を姉が私にしてくれたのであった。姉とのこの交流がなければ、恐らく大叔父のことを知る機会は全くなく、祖父の後にその人のことを記憶に遺し、口に出す人は、生家の中では皆無となったままであっただろう。

◆私の六人の兄弟が三人(次姉、次兄と四男の私)だけになり、時代が平成、令和とくだり、生家を整理するしなくなってきたころ、同じ村の中で歴史に興味を持たれた4人の方と接触する機会ができた。村の家々や田畑の入り組んだ境界を確認するときに、曾祖父が村の人たちと作った絵地図七部がきわめて正確に色鮮やかなまま、生家に残っていたため、村内で境界で困ったときには、村役場(町村合併後は町役場)から職員が地図を借りに来ていちいち確認するのに役立てていたが、当時はコピーもなく、その都度持って行き、用がなくなると返却されていた。ある時から、私の家のどきくさでもあったか、一部が無くなってしまい、役所が白黒のコピーで複写しておいたのを、今度はこちらでコピーさせてもらいかうじて今も家においてあるが一部は元の青と、朱色の色彩が白黒となる部分ができたことが残念であった。

◇その後も村の歴史探索4人の方が必要な時には、今は私が保管しているので、必要な部

分を大きな厚紙の箱に入れて実家のほうまで届けにいくことにしていた。

◆2,3年前に一度、頼まれたことがあり、地区ごとに分けて地図が保存されているので、必要な箇所の地図を探していたときのこと、ふと、地図とは別に、不規則に折られた和紙に画かれた絵と、掛軸に書かれた書が出てきた。まず絵を見ると、青年の横顔を描いた絵であり、私は、「あれえ、これは自分が画いた絵のようだ、どうしてこんな所にあるのだろうか?」と思った。次いで書のほうを見てみた。

少年易老學難成一寸光陰不可輕

未覺池塘春草夢 未だ覺えず池塘春草の夢
階前梧葉已秋聲 階前の梧葉已(すで)に秋聲

◆朱熹(朱子)の『偶成』。こんな大きな紙に書いた記憶がない、字も私の字ではない、とすると、と名前を見るとやはり私ではなく、結核で亡くなった大叔父が19歳までに書いたであろう、それであった。それにしても自画像と思われる顔の絵は私が描いた絵とあまりによく似ていたことには驚いた。

◇19歳の青年の無念の夭折を知った時に、この青年の思いが私に伝わって、代わりにその人の生をつないで生きて行ってあげたい、そんな気持ちで

歩いてきた。

◇八十才近くなり、自分なりには、少しは大叔父の無念を晴らすことができたかと思っていた。今はあまり見るものが少なくなつた『朱熹の偶成』はわたしたちも高校時代に習つたが、「老いること」「死ぬこと」「老いて初めて知るのだが、『人生には区切りがあること』を他人事のように聴いていたことであつた。

加えてこの青年が描いた自画像のいかにも自分へ私らしい描き方だつたことが、親近感・血族感を強く感じさせることになり、その青年が失望を抱きながらも病に斃れてしまったことが不憫で自分のことのようにひしと迫つてきたのである。

◆この青年の希望はもつと大きなものだったのではなかつたか、そうに違いない、と。今の自分を『まあまあ』とほぼ肯定している自分が途端に情けなくなつてきたのです。でも今は、気がついてよかった、と思つています。わたしにはまだ1日か、10年の命が残つていたことに感謝します。

自分は死ぬまで、この百八年前の青年の思いと意志と夢と、私に残っている生命をかけてまた競争を再開して行つてあげなくてはと思つているのです。

アイスバブル (2)



お知らせ(関心がおありの方だけ)

第113回 群馬県立歴史博物館企画展
「世界遺産・縄文」で北海道・北東北の縄文
遺物群 が展示されています。

『会期』 1/17～3/8

『開館時間』 9時半から 17時まで

(入館は 16時半までに)

1. 縄文時代

16,000年前～2,300年前

生活は、狩猟、漁労、採集で成り立つ平和が一万年近く続いたという、世界でもまれな時代だった日本の縄文時代のことが私たちの生活に多くのことを語りか

けてくれます。

2. 私の一番感動した展示は、『しやがむ土偶像』でした。苦痛に耐えているように見えます。恐らく座つて子供を産む「座産」時の苦痛の表情を現していると考えられています。

◇出産時に命を落とすことも多かつたことが想像されます。

◆『母親の墓に粘土に形どつたその女性のこどもの足型を副葬して

“死後の世界でも一緒にいられるように”という願いが込められていたのではないか』と説明する人もあります。

◇こどもの足型は10センチくらいなので、出産で亡くなつた母親に「あなたの子どもさんは元気に育っていますよ」と伝えてあげたいという気落ちからかとも想像され、死んでしまった「母親」「家族」「残された子ども」のいずれの気持ちを考えても、幾千年前からの哀しみがやさしく伝わって来るよう「離れがなくなる」展示でした。

一万年以上前の縄文時代の人たちも、今の人たち以上に人の命、そして最愛の子どもを大切に大切にしていたことを考えると、「遺棄」すらある今の時代の人類の方たちにこそ命を大切にしてください、という思いをメッセージで受け取っている気がいたします。

関心のある方はぜひ行ってみられたらと
考え、ご紹介させていただきました。



『座産』



アイスバブル(3、4)

